



2017.2.20
vol.02

特集
利府町“再考”リアル座談会
tsumiki の rireki 第2話
施設の名称と愛称・ロゴを決める
十符の里びと 2人目
市岡泰さん（陶芸家）
CHALLENGE! 〈チャレンジショップ Lifting〉
lunch&coffee M・cafe
店長 高橋美香さん



利府駅前 tsumiki から
まち・ひと・しごとを発信

利府町“再考”リアル座談会



「そもそも **利府町**ってどんな町？」
「町の魅力ってなんだろう？」
そんな疑問を生活者の視点で
浮かびあがらせるのが
「利府町“再考”リアル座談会」です。
利府町で暮らす人、利府町で働く人など
利府に関わる方々が集まって、
町の魅力や抱えている課題、
これからの可能性について
ざっくばらんに語り合いました。



●利府町は、北緯38度19分、東経140度58分で宮城県のほぼ中央部に位置している。総面積は、44.89平方キロメートル。東西に細長い地形で、松島町・富谷市・仙台市・多賀城市・塩釜市・大和町・大郷町に接し、古くから交通の要衝として栄えてきた。2017年1月末人口は、36,317人。

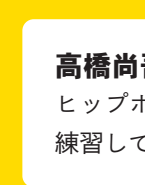
tsumiki ディレクターの桃生です。利府で仕事をするようになって約1年経ちました。今日は皆さんと利府町についてお話ししていきたいと思います。



まずは、自己紹介からいきましょう。順番をお願いします。



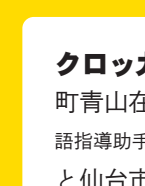
佐々木 将太です。利府町育ち、しらかし台在住。関東からリターンし、町内の介護老人保健施設に勤めながら、こども・学生支援団体「こどもチーム」のリーダーとして活動しています。



高橋 尚吾です。利府町育ちで宮城野高校の2年生です。最近ヒップホップに関心を持ちディスクジョッキー（DJ）の技法を練習しています！



たがしろと申します。利府町内で子どもに関わる仕事をしています。町外から通勤しています。まちづくりやおもしろい活動に興味があって、今回の座談会に参加しました。



クロッカー・ジュリアン・カールです。イギリス出身で利府町青山在住。昭和63年来日しました。宮城県内でALT（外国語指導助手）を務めたのち、今は塩竈・仙台・利府で英会話教室と仙台市内で英会話を取り入れた保育園を運営しています。



今日はざっくばらんに話しましょう。よろしくお願いします。

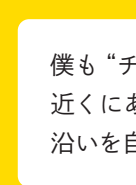
利府町“あるある”

まずは、皆さんにとって利府町ってどんな町ですか？



車があれば快適に暮らせませす。その反面、公共交通機関はちょっと不便ですね。**電車**は**1時間に1本程度**。終電で利府駅に着いたら団地行きバスが無くて、泣く泣くタクシーで帰宅したことがあります。

●利府駅は、JR東日本東北本線（利府支線）の終着駅。仙台駅から約18分。駅近くの町営駐車場に車を停め、そこから電車通する町民が多い。



僕も“チャリ通学”です。高校が宮城野区のJR仙石線福田町駅近くにあるんですが、電車を乗り継いでいくよりも、七北田川沿いを自転車で行ったほうが、お金もかからないし早いですね。



子育てするのに優しい町と言われていますよね。

●利府町では小・中学校入学時には運動着を無料で支給している。小学生は運動着上下・Tシャツ・クォーターパンツ・紅白帽子。中学生は運動着上下・Tシャツ・ハーフパンツ。

中学校に入学するとき、町から**指定のジャージを無料**でもらいました。他の市町村から見るとすごいことなんだそうです。



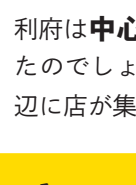
うちの子も小学校に入学する時、運動着が支給されました。**保育料も3番目以降の子どもは年中と年長時は無料。医療費は18歳まで助成があるので**助かっていますね。体育館、温水プール、多目的運動場などスポーツ施設も充実していて、安く利用できます。緑豊かで公園もいっぱいあって子育てには良い環境です。



利府で生まれ育って、そのまま利府に住む人、1回町外に出ても再び戻ってくる人が多い気がします。

利府町の特徴とは？

子育て支援が充実していて生活しやすいんですね。「仕事をつくる」という点ではどう思いますか？



利府は**中心部がどこか分からない**です。昔は駅前周辺だったのでしょうか。今は団地に人が多く住んでいて、イオン周辺に店が集まり商業の中心になっているのかな？



映画館もあるし、電気屋さん以外は、**イオンモール利府**の周辺で全て揃うといわれていますね。

●「イオン利府店」を核店舗に、2000年オープン。その後周辺には映画館、ホームセンター、ドラッグストアなどの大型店舗が増えた。



マクドナルド革命っていつ、1998年頃、一面田んぼだった館公民館の近くに「利府に初めてマクドナルドができた！」って大騒ぎになった覚えがあります。僕が中学生の頃です。その後2000年にイオンができて便利になったけど、町並みや景観がだいぶ変わりました。



僕も両親から、引っ越してきた理由のひとつは、利府にイオンができるからだって聞いています。

●宮城県総合運動公園。体育館、プール、テニスコートなど誰もが利用できるレクリエーション施設の他、ひとめぼれスタジアム宮城やセキスイハイムスーパーアリーナでは、スポーツ試合やコンサートなどのイベントも多い。

●**グランディ21**もあります。イベントの時には大勢の人が来るのですが、宿泊施設もなく駐車場も不足しているようです。ビジネスチャンスはありそうですが、不定期で開催される催し頼りでは、経営が難しいかもしれません。



利府町は梨が有名ですが、お土産などの名産品はありますか。



街道沿いに梨小屋があつて販売しています。梨を使ったお菓子や加工品などもあります。

利府に新しい価値を

単純に、利府の町に何があつたら面白いですか？



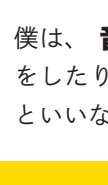
●プロ野球やサッカーなど各スポーツの国際試合をテレビ観戦できる飲食店。スポーツファン同士の交流がある場合も多く、全国的に増えている。

私はサッカーが好きです。子どもたちは、スポーツ少年団に入ってサッカーをしています。私もスポ少のお父さんたちと一緒にサッカーを楽しんでいます。みんなが集まって観戦できる、**スポーツバーのようなお店があると楽しい**ですね。町内には**お酒を飲みに**いける**飲食店が少ない**ので、もっとお店があるといいと思います。



利府には子育て世代が多く住んでいると思うので、お母さんたちが集まって、ゆっくりできるカフェや手仕事などができる場所があつたらいいと思います。駅前で**マルシェやマーケット**が定期的に開催されるとおもしろいと思います。

●市場のように、小さなブースのお店が並び、いろんなものが販売・提供されるイベント。近年各地で「市」「マルシェ」「マーケット」と銘打った催しが盛んに開催されるようになった。tsumikiでも、2月26日（日）「こ・あきない市」を開催。

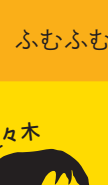


僕は、**音楽好きが集まる場所**が欲しいです。楽器の練習をしたり、ライブイベントをしたり……音楽スタジオがあるといいなあ。



●**塩竈ベイウエーブのようなラジオ**をやってみたいです。今は、インターネットラジオとかお金をかけなくても比較的気軽に開局できます。学生時代に経験があるので、情報発信していきたいですね。

●宮城県塩竈市のコミュニティラジオ。塩竈市の情報を中心に、近隣地域の情報を放送している。地域密着・市民参加・災害時の情報提供を特徴とするコミュニティラジオの可能性は大きい。



ふむふむ、なるほど。いろいろアイデアが出ましたね。



利府の町にも個人で活動する人や仕事をしている人は、潜在的にたくさんいると思うんです。でも**どこでどんな活動をしているのか分からない状態**になっているのが、もったいない気がします。



利府は、働く町というより、暮らす町という印象です。現状が暮らしやすく、町の課題が見え難いのでしょうか。町民の皆さんが**自由に表現できる場、情報が集まり発信できる場**があるといいですね。今回のように、話し合う機会も必要です。tsumikiは、起業・創業支援もする一方でまちづくりの拠点でもあります。一緒に利府の町をもっとおもしろくしていきましょう。

tsumiki の rireki

利府町まち・ひと・しごと創造ステーション tsumiki は、2016年6月から9月までの間、全8回行ったワークショップ（町民参加型の話し合い）の場が母体となって誕生しました。毎回テーマを設け、若手を中心に企業・学生・NPO スタッフ・行政職員といった多様なメンバーが集い議論を重ねてきました。tsumikiには、ワークショップの中で生まれた意見やアイデアが反映されています。まさに町民による町民のための施設です。3回に分けて、tsumikiができるまでをお話します。

語り手 ● tsumiki ディレクター 桃生 和成

第2話

施設の名称と愛称・ロゴを決める

ワークショップの中で話し合いたいことはたくさんありましたが、7月と8月は、主に施設のロゴと愛称について話し合いました。ロゴや愛称は、目や耳にすれば、その施設の印象や性格を決定付けてしまうものですので、一度決めたらそう簡単に変更することはできません。この2つを決めるのにじっくり時間をかけました（それでも足りないぐらいでした）。

はじめに、施設の趣旨・目的について改めて全員で確認。事務局側でセレクトした幾つかのキーワードを組み合わせながら、ワークショップの参加者にそれぞれグループになってもらい正式名称と愛称を考えました。具体的には、「起業」「創業」「創造」「まちづくり」「拠点」「施設」「ステーション」といったキーワードがありました。グループのメンバーを替えて3回ほど話し合い、最後に多数決を取りました。多数決も一回で決めるのではなく、それぞれの投票した理由を全体で共有しながら複数回行いました。会議の時間をオーバーして、ようやく「tsumiki」が愛称・ロゴとして決定。

同時期にユニットハウスも設置され、話し合いの内容もより具体的にになっていきました。

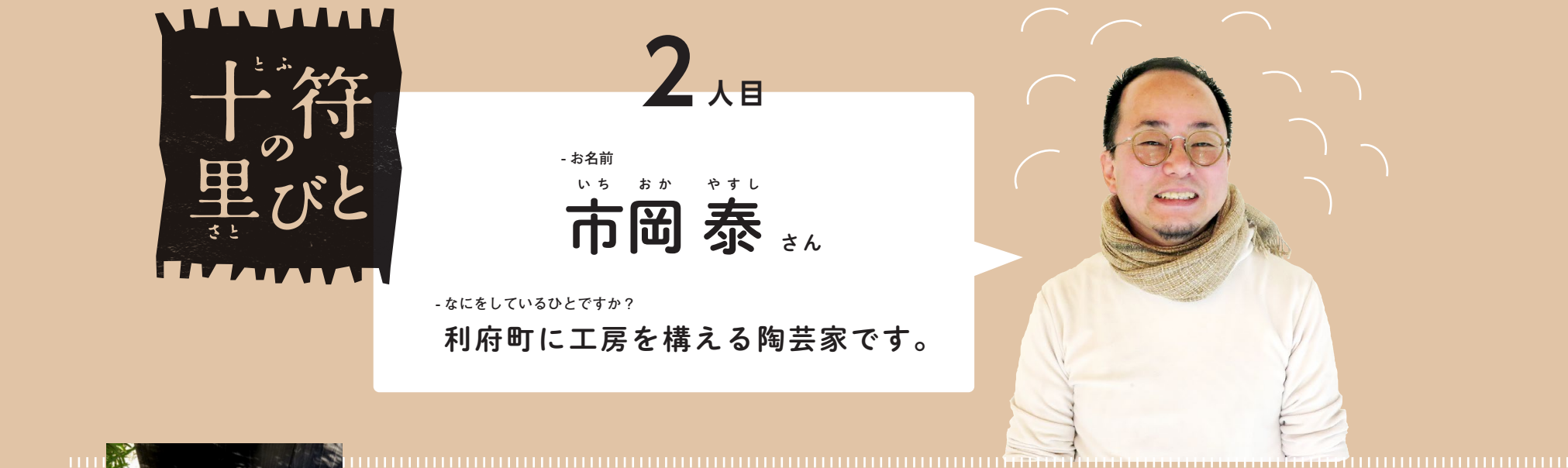
愛称を提案してもらいました。冒頭で話したとおり、本来であれば愛称やロゴはとても重要な要素なので丁寧に時間をかけて議論を重ねて、最初から最後まで参加者の皆さんに委ねたいところでしたが、オープンの時期が日々近づいていたため、やむなく専門家に託す部分が出てしまったのは少し残念でした。それでも各デザイナーには、参加者のみなさんの思いを汲み取っていただいた素晴らしい提案をしていただきました。

続いては、提案された3案の中から一つに絞る作業です。多数決で決めるのは簡単ですが、それぞれの意図を理解した上で、最適な愛称・ロゴを選択するために話し合いを重視しました。3名ぐらいのグループを複数つくり、それぞれ選んだものとその理由について話し合ってもらいました。グループのメンバーを替えて3回ほど話し合い、最後に多数決を取りました。多数決も一回で決めるのではなく、それぞれの投票した理由を全体で共有しながら複数回行いました。会議の時間をオーバーして、ようやく「tsumiki」が愛称・ロゴとして決定。



● 次号は、9月・10月に行ったワークショップを中心としたお話です。

Rifu-Co-Laboの様子は Web から
www.rifu-colabo.org



2人目
-お名前
いち おか やすし
市岡 泰 さん

-なにをしているひとですか？
利府町に工房を構える陶芸家です。



日々の暮らしに喜びと彩りを。
生活に寄り添う陶芸家

宮城県総合運動公園近く、利府町菅谷台の閑静な住宅街に、市岡さんの陶芸工房があります。自宅の傍らに建てられた工房は、横長の窓が印象的な外観。その窓からは、落ち着いた佇まいの様々なうつわが顔を覗かせます。入り口のガラス戸を開くと、白壁にうつわが映えるギャラリースペース。奥には作業スペースが広がります。2008 年から、利府町で工房を構え活動している市岡さんにお話を伺いました。

工房を訪ねると、腰から下に長い作業用エプロンを巻いて、自作のカップに手慣れた様子でお茶を淹れてくれた市岡さん。普段使いのうつわを作る人だからでしょうか。どこか家庭的な雰囲気印象的。自宅と工房を行き来する生活に、「家事と仕事の区別をつけるのが難しいです」と話します。

「白化粧」は、市岡さんが学生の頃からずっと続けているしごと。『白化粧』という白い泥を器にかけると表情にムラができ、素地の土の色や仕上がりの質感に変化がでるんです。土と化粧土、釉薬の重なり合った質感が好きで、あえて土を荒らしたり、ざらっとした土の質感を楽しみながら作っています」と丁寧に説明してくれました。「文様」は、ドットや輪のデザインが印象的。「土や白化粧、釉薬の異なる質感を一つにまとめるために文様を用いています」。シンプルな行程を丁寧に積み重ねて作るうつわは、どちらも料理が良く映え、使い勝手が良いと評判です。

波に乗るような人生

陶芸家を志すきっかけを尋ねると「子どもの頃から機械を分解してみたり、ものの仕組みを見るのが好きでした」とものづくりへの興味はあったそう。「大学を受験する

際は、筆記試験と実技試験で受けられた美術科に進学しました。そこに陶芸の先生がいたんです。本当は木工がやりたかったんだけど、やってみると粘土も面白いんじゃないかと思ったんです」と淡淡と語ります。大学院を修了し、金沢の卯辰山工芸工房で2年経験を積みました。その後「新しい大学ができるから手伝ってほしい」と誘われ、宇都宮の大学で助手を2年務めました。「どうしようかなと思った時に、いつもチャンスが向こうからやってきて、自然とその流れに乗ってきただけです」と振り返ります。

そんな市岡さんのターニングポイントは30歳。「このまま大学の仕事を



続けるか、独立するか。僕は昔から普段使いのうつわを多く作っていたので、教えてお金を得るよりもうつわを作ってお金をもらう生活がシンプルでいいのかなって」と独立を決断。地元の宮城に戻り、縁あって美里町に工房を開いたのは2002年のことでした。

一般的には、もの作りだけで食べていくことはとても勇気がいることですが、市岡さんは「あまり抵抗を感じなかった」と言います。「金沢では工房を出たら作家になる人がほとんどだったし、妻も働いてくれていたので、まあアルバイトしながらならやっていけるかな、くらいの気持ちでした。浅はかでしたね」と笑います。4～5年程、講師業で生活のベースを築きつつ、作品販売の機会を増やしてきました。

人の縁は仕事の縁

はじめて展覧会を開催したのは、仙台市内の馴染みのギャラリーでした。「独立したんだけど発表の場がなくて」と店主に相談したら、「うちでやってみない？」と言われました。「そこから全国のギャラリーを紹介して応援してもらった。縁はすごく大事ですね。仕事は人から人への紹介で広がっていったと言えます。「チャンスの時に、自分の準備ができてないとだめだなんて思います」と

常日頃、作品と人に真摯に向き合っているからこそつながるご縁です。

もう一つの転機は、クラフトフェア。独立してしばらくした頃、大学と一緒に働いていた友達に誘われました。「遊びに行きがてら出してみたら、お客さんがすごくいっぱいきて、そこからお店などで作品販売する機会がぐっと増えました」。

誠実にしごとを積み重ねる

「今の仕事もあるので、縁があればという程度なのですが…」と、気負わないスタンスは崩さない市岡さんが、できたらいなと考えていることは二つ。一つは学生の頃から思っていた「障害を持った人たちの創作活動に関われたらやってみたい」ということ。二つ目は、「利府の素材を使った焼き物を作ってみたいですね。利府の土や灰で作品が作れたらいいと思います。今までも、おぼろげに思っていたことが結構実現しているのですね」と笑顔で話す市岡さんの思いが実現する日は、そう遠くないかもしれません。

流れに乗ることと、流されることは違います。チャンスの波が来た時に、自分の軸をしっかりと持っているからこそ、それに乗るか乗らないかを選択することができます。なんとかなるさと波に揺られる大らかさと、一方で、誠実にものづくりに取り組む姿勢が、陶芸家を続けてきた秘訣なのでしょう。陶芸と出会って27年目に突入する、市岡さんのこれからにますます注目です。



CHALLENGE!

チャレンジショップ Lifting は、国の「地方創生加速化交付金」を活用した利府町の起業・創業支援事業の一環として「りふレ横丁」の空き店舗を活用し、飲食店の開業・開店を目指している方を支援することを目的として運営しています。 ●利府町中央1-5-7 家屋5（りふレ横丁 内）

lunch & coffee M・cafe

店長 高橋美香さん



M・cafe は、2016年11月にりふレ横丁のチャレンジショップ内にオープンしました。利府に暮らす主婦仲間が開いたこのカフェは、「利府でゆっくりできるようなカフェがあればいいなあ」という思いが形となったものです。夜のイメージが強かった横丁に「カフェ」の登場は目新しく映ります。身体に優しい食材といわれる「まごわやさしい」(豆・ごま・わかめ・野菜・魚・しいたけ・芋)を基本に、家族の健康を担う主婦ならではの気遣い・発想がふんだんに盛り込まれたランチを提供。地場のものを積極的に用いて作られるランチは口コミで広まり、お弁当やオードブルも届けています。

もともと、子育て仲間やご近所同士だったという彼女たち。「利府にはお友達が集まったり、お喋りをしたり、ゆっくりできるカフェがなかったんです」と店長の高橋美香さんは話します。それぞれが料理やお菓子作りという特技を持っており、「それを眠らせておくのはもったいない。もっとアピールの場を作りたい」と思った高橋さんが仲間に声を掛け、2年

ほど前から計画し準備をしていました。食に関する講座に通って知識をつけたり、それをどう活かせるのか研究、工夫したり。一方では活動の場となる良い物件がないかと探していました。利府町内にこだわって探しても、なかなか見つからず諦めかけていた時に、利府町のチャレンジショップの話が舞い込んできました。駅前にあるりふレ横丁の空き店舗を活用し、飲食店の開業・開店を目指している人の支援をするというものです。翌日には、行政・企業・住民による話し合いの場であるRifu-Co-Labo（リフコラボ）のワークショップへ参加。あれよあれよという間に

出店が現実のものとなって動き出しました。構想から約2年、高橋さんは「毎日勉強になることばかりです」と控えめに話しながらも、「自信を持ってアピールできるお店になってきました」と笑顔を見せます。「老若男女問わず、利府の人たちに愛される場になれば嬉しいですね。利府を代表するカフェを目指し、夢は大きく膨らみます。

プレートランチ

(コーヒーまたは紅茶付)

1,000 円

自家製の「醬（ひしお）」が染み込んで、柔らかくジューシーなお肉がメインの食べ応えのあるランチメニュー。野菜たっぷりの副菜やスープも付いてボリューム満点。



おすすめ

コーヒー、紅茶、ジュースのほか、香り豊かなハーブティーも用意。スイーツと一緒に、ゆっくりカフェタイムを過ごしてみたいかが。

手作りスイーツいろいろ



lunch & coffee
M・cafe

営業時間 11:00～15:00 (L.O. 14:00)
定休日 日曜・祝日・月曜
TEL 080-8201-5231
Facebook [M・cafe 利府] で検索

tsumiki INFORMATION

2017.3



3/8 (水) 起業・創業セミナー

14:30-16:00 利府で小商いを始めるためのいろは

講師 佐々木朝美さん (Bagel and Bread spica)

tsumiki では、起業・創業を考えている人向けに、宮城県内で多様な分野で活躍している方々を講師に招き少人数のセミナーを開催します。
【参加費】 無料 【定員】10人程度／事前申込必要

3/9 (木)

10:00-15:00

利府町 × HANDMADE MARCHÉ
ママ&キッズ手しごとフェスタ

ママやキッズが笑顔になる、美味しくてカワイイ手しごととショップが集まったマルシェを開催します。足形スタンプ無料体験（先着順）や各種ワークショップもあります。【入場料】 無料

3/10 (金)

19:00-21:00

TSUMIKI SHORT FILM & TALKING THEATER
想いをかたちに

4本の短編映画の上映会。新進気鋭の映画監督片岡翔氏と、利府町在住の現代美術家すがわらじゅんいち氏によるトークセッションも同時開催。
【参加費】250円 (ワンドリンク付) 【定員】50人／事前申込必要 (先着順)

3/15 (水)

19:00-21:00

tsumikiライター塾
街ネタのを見つけ方と記事の書き方

講師 安藤歩美さん (合同会社イーストタイムズ、TOHOKU360 編集長)

tsumiki から利府町で活躍する人や町の魅力を内外に情報発信するため、編集・ライティングのスキルを学ぶ町民ライター塾を開催します。
【参加費】 無料 【定員】10人程度／事前申込必要

各種イベント・講座のお申し込み

TEL 022-766-9231 E-mail info@rifu-tsumiki.jp

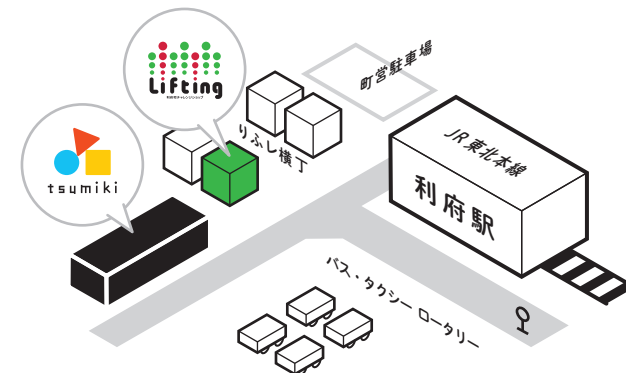
お名前 (ふりがな)・電話番号・メールアドレスをお知らせください。



利用時間
9:30-17:30
(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置者 利府町 (政策課政策班)

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。政策課政策班は、地方創生の総括部門として「利府ならではの」シティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。

管理運営 (業務委託者) 一般社団法人 Granny Rideto

Granny Rideto (エスベラント語) は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェブサイト
rifu-tsumiki.jp

Twitter
@rifu_tsumiki

Facebook
<tsumiki>で検索

Instagram
@rifu_tsumiki

- 工房の情報

陶芸家 市岡泰

■ 宮城県宮城郡利府町菅谷台 1-15-8
☎ 022-767-3723
📄 https://utuwa-ichioka.jimdo.com

※工房への訪問は事前の連絡が必要です。



利府町で暮らす面白い人を毎月ひとりでずつ紹介していきます

十符 (とふ) とは? …… 昔、利府町の湿地帯には、良質な菅 (スゲ) 草が生じ、「菅藁 (スガコモ)」と呼ばれる数物が作られていました。その菅藁の編み目が10編あることから「十符の菅藁」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十 (と) が利 (と) に、符が符に変わったと言われています。